

環境振動運営委員会 議事録（案）

A．日 時 2006年11月21日 火曜日 17:30～19:30

B．場 所 本会会議室

C．出席者 石川主査、以下12名

D．提出資料（提出委員名も記入して下さい）

E．議事内容

0．議事録確認

前回議事録が了承された。

1．報告事項

第2回環境工学本委員会報告

2．委員会活動報告並びに審議

- ・環境振動測定手法技術小委員会
- ・環境振動性能評価小委員会
 - 性能表示の改定に向けて、前向きに提案に向けて検討していく
- ・環境振動制御技術情報小委員会
- ・低周波音（振動）WG
 - ・2008年、低周波音の国際会議日本開催予定
- ・広報WG
- ・企画WG

3．次回開催予定

次回委員会は、2007年1月23日（火）10時30分から12時00分まで本会会議室で開催予定。

平成 18 年度環境振動シンポジウムに関する議論

- ・測定法や測定器に特化しても参加者が多く見込めない。他のメインテーマの中に含める方がよい。
- ・対策による低減効果、設計法はおもしろい 制御情報のテーマか？
- ・資料 6 の説明
- ・やりたいことは設計、対策、効果
- ・特定のものはないので、ここである程度の方向性を出したい
- ・問題提起をして、それを解決していく
- ・対策事例の中で設計に関係するところを取り上げて、設計の試行錯誤、プロセスの説明
- ・指針の交通振動の箇所フローが示されている、体系化ができていない
- ・いきなり「環境振動設計指針」まではいかない、実務の業務に則して、何がどう違うか（バネマス系、FEM など）実務で悩んでいることをあからさまに
- ・扱い方法としては、デシベル、スペクトル、FEM（時間領域）の 3 種類のアプローチ、これらの違いがどの程度かを検討中、1 つの外部振動源に対して、それに対策を絡めていく 今年度の 1 月では無理
- ・今回のシンポが各ジャンル（交通振動、風、床など）ごとの問題提起
- ・測定法について、特に焦点をあてなくても、固体音と振動の問題、評価指針のための測定法、衝撃源の話（実衝撃源と標準衝撃源）これだけでも十分なテーマがある
- ・メインテーマは、例えば固体音としてその中に測定法、測定器の話を入れれば一つのストーリーとなる、テーマとして測定法というのはあまり入れない方がよい
- ・評価指針で 30Hz 以上のデータ（40Hz 以上）もあり、音と連続させることも可能 そういうデータが出せればよい
- ・測定法の改訂版（HP に載せようとしているもの）を最後に持ってくる、その前に間を埋め込む必要有り
- ・まだ測定法の提案までっていない、解析法を主体に測定法のマニュアルを作成中（現段階でマニュアルまでっていない）6 割程度のでき 7 割以上だと主張する内容となるので、この程度でよい
- ・もっと魅力的なもの、積み残しのもの
- ・「環境振動の実務的設計法」、そろそろいいかも、実務の人はそういうところに目がいく
- ・「環境振動の実務的設計法と問題点」、加振源から評価まで全部流す、加振源、伝搬系ごとに整理、
- ・「実務的環境振動の設計に向けて」、問題点の整理
- ・「居住性能の設計体系を作る、可能か
- ・設計例
- ・体系化のプロトタイプを作る、整理が必要
- ・夏までには決めてしまう、メールやりとり